

事業所自己評価シート

令和7年度(2025年)

*保護者(13/17 回収率 76%)・職員(5/5 回収率 100%)

職員による自己評価

A環境面

環境設備に関して更新はしていないが、引き続き整えていく。感染症対策として、共有部分の消毒や標準予防策を順守している。施設内感染等は発生していない。職員対象の感染症対応研修として、標準予防策や二次感染の予防の勉強会を実施し知識等向上に努めている。

B児童への支援内容

昨年度より引き続き、5領域の支援内容に沿って統一した支援を行っている。他事業所交流や近隣住民、機関との交流などの実施、社会体験の機会として近隣商業施設や飲食店舗への外出活動を実施している。

C関係機関との連携

相談支援事業所の担当者会議や学校との情報共有が遅れがちになっていたが、概ね連携を図る事が出来ている。

D保護者への説明責任・信頼関係

日頃から送迎時にご様子をお伝えし、適時電話連絡等で状況や課題について情報共有を行う事で共通理解を持てていると思われる。

E非常対応

防災避難訓練、防犯訓練を学校休業期間中に全曜日実施した。警察・消防立会の上実施、事業所内避難行動に対して評価を受けている。昨年度に引き続き、災害時の連絡手段の共有について進めていく必要がある。

保護者による評価

A環境面

環境、体制整備共に概ね良い評価をいただいている。

B児童への支援内容

支援に関しては概ね良い評価をいただいている。

C関係機関との連携

セラピスト・計画相談等との連携については、少し評価をいただけなかった。

D保護者への説明責任、信頼関係

利用児、ご家族との意思の疎通や情報共有については、概ね良い評価をいただいている。

E非常対応

紙面の関係上、広報誌による訓練実施の報告をしなかったためなのか、定期的な避難訓練の実施については、少し評価をいただけなかった。



事業所内での分析

【共通点】

- ・環境整備や支援内容については、概ね良い評価だった。
- ・セラピスト・計画相談等との連携については、少し評価をいただけなかった。

【相違点】

- ・非常時対応については、少し評価をいただけなかった。

分析・検討してみて…

事業所の強み

様々な活動を通して経験を積むことができる。近隣地域への外出活動も再開した。同法人所属のセラピスト（PT・OT・ST）が活動支援に入るため、多角的に状態を評価し共有する事が出来る。また同事業所内に生活介護部門があることで、高校卒業後の生活をイメージしやすい事、また成人利用者と交流の機会が持てる。

事業所の改善点

活動スペースの確保については、活動内容に合わせて、限られた施設内で臨機応変に対応していきたい。関係機関との連携については、より利用児及びご家族の要望などを汲み取り、満足いただけるよう改善していきたい。災害時の対応については、実施した訓練等を広報誌等で報告し、ご家族の安心感に繋げていきたい。

事業所の改善への取り組み

- ・災害時対応に関しては、今まで通り避難訓練等を行い、情報連絡の手段でもある広報誌やホームページを活用して実施報告をし、ご家族の信頼に繋げていく。昨年度に引き続き、災害発生後のご家族との連絡方法など具体的な内容を共有していきたい。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・事業所の災害時対応については実地・連絡訓練を重ね整備出来つつある。今後連絡系統を共有していく。
- ・利用児支援については、今後さらに様々な体験の機会を増やしていきたいと考えている。

事業所名 社会福祉法人 十愛療育会 たっちいずみの

担当者 林 卓志